

雌伏雄飛 ?!

私と、同世代・同年代の菅官房長官が総理総裁の座に辿り着いた。政治家を志して故・小此木彦三郎衆議院議員の秘書になってから45年、政治家としては横浜市議会議員を経て衆議院議員になって通算33年、正に『雌伏ウン十年』叩き上げ、磨き抜かれた手腕は、凡庸な政治家や官僚・財界人にはとても太刀打ちできない、小柄な大器の雄飛 ?!。

私のスタンスは、常々是非々のヒヒ爺だから、菅シンパでも支持者でもない。面従腹背を貫き千載一遇の機会を捉えて頂点に立った感が強い。清廉潔白な政治家など皆無に等しい、と云われているが、就任早々アイヌ新法の裏側・IR誘致の裏側・インバウンド問題など問題山積だ。

今回の総裁選で手を挙げ敗退した石破・岸田の両氏共に、総理/総裁の器ではない。更には、手を挙げつつ、引っ込めてしまった面々も同様だ。寄らば大樹の陰で、一斉に菅支持表明した各派閥の面々も、濡れ手に粟を狙っていることもミエミエで見苦しい。健康上の都合で急遽辞任されたのであるから、副総理が任期期間代行するのが筋だと思っていたら、人望も能力もない古株連中が色めき立って、手を上げては引っ込めたり党内選挙が行われた。

結果は周知の通り、菅氏377票・岸田氏89票・石破氏68票で、今後何度総裁選に立候補しようと石破・岸田氏の目はなくなった。マスメディアの『世論調査』では、ポスト安倍の一番人気だったはずの石破氏が党内での支持も得られず、地方票でも伸び切れなかった、完全に『オワ!』だ。と、同時に『ポスト安倍の一番人気』と、囃子立てていた偏向誘導マスメディアも完璧に終りだ。



早ければ10月、遅くとも年内に解散総選挙が噂されているのは周知の通りで、再々度自民党が政権与党になった段階から、本格的な菅政権が発足する。巷では、安倍氏の3度目の振り返りを期待する声も聞こえるが、(安倍氏自身の希望的観測も含め)それはないだろうと思っているし、あつてはならない事だとも思っている。内臓疾患が原因と云うより、ストレスによる内臓疾患が悪化したと云う事ではないか。「お疲れさまでした」に違いはないが、適職ではないだろう。

菅氏が「はいそうですか…」と、簡単に席を譲るとは思えない(そんな玉ではない)と思うからだ。組閣人事の内容からして、来年9月までのつなぎ政権の気持ちなど更々ない強力な布陣だ。ヤルヤル詐欺の前政権から一変して、やらなかったら即刻クビ!で、遣ってる振りをしていても実績を出さなければ容赦しないという気迫が感じられるから、任命された閣僚・副大臣・政務官各位は、身の引き締まる思いでおられるだろう。反面、スタート早々エンジン全開の議員もいる。私が注目していたのが、新政権で小此木八郎氏と三原じゅん子氏の登用があるかどうかだった。



小此木八郎/三原じゅん子

神奈川県選挙区からの登用が目立つ政権になった。菅氏は秋田の出身だが、18歳までで50年余り横浜在住で、恐らく『浜っ子気質』(出船入船=来る者は拒まず、去る者は追わず)を身に付けているだろうと思う。政治の師匠である故小此木彦三郎氏の子息を登用し恩返しできた。かと言って、良し悪しは実績次第だろうから、八郎氏、じゅん子氏の活躍ぶりにも注目したい。



長尾たかし議員がいみじくも述べた「日本の本当の危機は、国民の無関心だ」は、その通りで、歴史の転換点に立っているという意識をもって、「あるべき姿」の自分を見つめ直し、軌道修正を余儀なくされている事への関心を高める時(危機感をもって対処する時)だと云う事だ。

結束は心で結ぶものに対し、結託は利害関係で結ぶものだから、結託した組織は、もろく崩壊の危機を常にはらんでいる。国民の無関心の根底に結託が根付いているように思える。



菅総理就任記者会見で述べておられた自助・共助・公助を国民は、どのように受け止めているのだろうか?現状は、自助も共助も限界点を超えた状態で、公助に頼るしかないという声を聴きながらの発言だろうから、施策を注視したい。(私の自助・共助・公助については第四章)

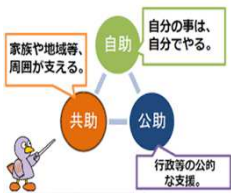
世論調査の支持率が良い内に選挙が行われ、本格稼働が始動するだろうと思うが、短命内閣で終わるか、長期政権を確立できるかは、内部に怪しい人間が徘徊していることを予め知っておく必要があります。二階・麻生両氏は、選挙後の組閣人事で外され、岸田・石破氏は蚊帳の外のみで行けるかどうかPointです。以下の動画は必見です。是非ともご覧ください。

<https://www.youtube.com/watch?v=2FSYQC6kGqQ>

https://www.youtube.com/watch?v=LqA_OlBqgE

<https://www.youtube.com/watch?v=IDWJ187SkPU>

親中派と日本の暗部
門田隆将さんに訊く
デービット・アトキンソンの正体-1
デービット・アトキンソンの正体-2



規制するなら…

コロナ禍にあって、マスク着用義務は、個々に課せられている。国によっては外出時にも強制され、未着用者には罰金まで科せられるという。そんな最中、日本ではピーチ・アビエーション機で、マスク着用拒否男が大騒ぎを起こし現在の日本を炙り出す醜態を演じ、問題提起をしてくれた。大方の日本人は、根本問題に気が付いていないだろう。

マスコミ報道では、9月7日釧路から関西空港に向かう同機内で、客室乗務員の要請に応じずマスクの着用を拒否し、大騒ぎし続ける男を、機長の判断で新潟空港に緊急着陸し降機させ、2時間15分遅れで関西に到着した。乗客は他に124人が搭乗していた。という概要です。

ネット情報で深堀してみると、もっと重要な情報が何故かマスコミ報道では伝えられていません。ホリエモンがツイッターで「航空法的には機長の指示に従わない奴は強制的に下すことが可能なんだけどコロナ禍の機長に下されることほどムカつくことはないな」「クソ航空会社だな」「しつこくクソ真面目なCAが注意しまくるからこうなる」「私の知人はノーマスクでも無注意でスルー。「スルーすりゃいいのに」などと連続投稿して航空会社側の対応を批判。

ノーマスク男と同レベルのホリエモンの批判に、同調する者と、これを批判する人々とがツイッター上で炎上したという話まである。ホリエモンは批判者に「頭が悪すぎてびびる」と一蹴した。



ホリエモンの頭が良いか悪いかは別にして、心がない発言でしかない事は明白だ。心ない日本人の典型的な(一時的な)時代の寵児が、未だに口を閉ざしていない。それ故に臭い飯を食って来たことに対する反省の欠片すらも見えない『更生していない人間が娑婆に出ている』この種の日本人が巷にゴロゴロいて、(増えていて)『日本を取り戻す』速度を減速させている。

マスク着用指示が出てからは、ノーマスク容認論は破たんして、『アベノマスク』をはじめコロナウイルスがスカスカに通過するような布マスクであっても、取敢えず、マスクを着用する事が世界中の行動規範になっている。タイ国・チェンマイでも、セブンイレブンに入店するにもマスクを着用しなければ入店させてもらえない。デパート・ショッピングセンター・レストランも入店時に係員が、体温チェックを入店者(顧客・店員・業者を問わず)全員に行っている。

ピーチ航空の地上職員と、ノーマスクの男が出発時間を過ぎても、40分に渡ってマスクを着用するしないで口論した挙句(出発時間も大幅に遅れている事だし)「まっ良いか」で搭乗させた事が本件の最大のミスだと云う事です。「マスクを着用しないなら搭乗を断る」と云えなかった。

取り戻せない面々

かつて、『Pure/Thaiマッサージ店では、風俗マッサージはしておりません』から、ご要望のお客様は他店をご利用下さいと、店内の案内板に表示し、セラピスト(マッサージ師)たちにも厳命していました。それでも、フリーランスのセラピストの中には、チップ稼ぎの為に顧客に甘い耳打ちをして誘い、シコシコ稼いでいた者もいました。レセプション係(女性)は直感的に気づきますから、注意すると「やってない!」「やってる!」で口論が始まり、次に同じ客が指名してきた時には、マッサージ室の引き戸を半開きにしたり時折様子見したりして、現場を押さえ、即刻解約を言い渡した事もあります。「顧客から無理やり強要されたから、仕方なく…」と云う弁明をだれが信じるでしょう?

私は、Mede in Thailand 製の布マスクを洗濯しながら愛用しています。コロナウイルスがスカスカ通過するようなマスクでも、『マスク着用』要件を満たしているのですから、全く問題ありません。(マイペンライ)。そんな事もできないで、屁理屈をこねくり回すノーマスク人間と、毅然と断り切れない地上職員のマイペンライ。ひいてはホリエモンのマイペンライには危惧を覚えます。そこで、いつものブーン(蜜蜂)ちゃんにマイペンライの意味と、日本人タイ旅行者がやってはいけないアドバイスを解説して貰いましょう。

<https://www.youtube.com/watch?v=lYe4k6TfZBI>

マイペンライ精神

<https://www.youtube.com/watch?v=adzaAwlXJ0I>

怪しげなマスク男

タイ旅行者がやってはいけないこと



タイのタバコのパッケージは、とても見せびらかせるシロモノではないほどグロテスクな解剖写真などが印刷されていて、それ程喫煙は忌み嫌われている。喫煙者本人の健康上、やめられれば止めた方が良いに決まっているが、百害あってもストレス解消などの効果もあって、生活習慣病に罹っても止められない。(北タイはタバコの生産地であることは以前記述した)喫煙者でない人も肺がんで亡くなっているから、タバコだけが肺がんの元と決めつけるのも云い掛りでしかない。日本総領事館のあるビルをはじめ、ショッピングセンターの駐車場などに、喫煙場所が指定されている。駐車禁止道路でも、時間帯によって駐車しても良いような規制が敷かれていて、日本のように、ガラ空き道路に駐禁規制をかけるだけで、公共の駐車場や時間帯規制解除の手間暇をスルーしている事に文句を言わない、なし崩し、泣き寝入り国民は役人になめ切られている。タイでは、365日毎朝8時と夕方6時には国旗掲揚と国旗降納が行われ、町や村に国歌が流れる日本もこれから始めなければ、日本を永久に取り戻せないだろう。(まずは官庁から始めよ)

<https://www.youtube.com/watch?v=kFFJdQrQQug>

タイ国歌 2020年 最新版



荼毘

十年余り住んでいると、現地の人たちとの交流も多くなり、その関係から葬儀に参列することも年に数回あるようになって来た。チェンマイに限らず、村の中には数か所、村はずれに火葬場があって、(街中にもあるが)そこで荼毘に付される行列を目にする機会も多くなって来た。…そう遠くなく何れは自分も…は、置いて、終末の情報を…

死生観をもって生きていけば、やたら死を恐れる必要はない。とは云え、不条理で無残な死に方はしたくない。自分だけは贅沢三昧・酒池肉林のこの世を謳歌し、生き残り、人民の命は虫けらよりも軽いという一党独裁国家の残虐非道な条理は、自由民主国家では通用しない。

武漢ウイルスで行き倒れになったり、道路に死骸がゴロゴロ転がっている動画をご覧になった方も少なくないでしょうし、誰が考えても中共の発表した数字が本当だと思っている人もないでしょう。当時の武漢の火葬場の担当者の声が動画に残っていますのでお聞きください。
<https://www.youtube.com/watch?v=sOx3o93MAfi> 一体何人火葬している？湖北省

それだけではなく、8月・9月の大洪水で亡くなった中国人民の数は、全く報道されていません。数百人・数千人の単位ではないだろう事は、洪水の規模からして想像に難くありません。住居すらも流出し、田畑も全滅し、穀物をはじめ農産物の凶作は必至で、補償もなくこれから餓死者が増大する事も予測できますが、毛沢東以来、人民の命より中国共産党の存続の方が優先の国ですから、今年だけでも億の単位が荼毘に付されているのではないかと思います。

それだけでなく、生きている人間の臓器までビジネス化している事まで明らかになって来て、気功の法輪功学習者やウイグル人をテロリストに仕立て上げ、無辜の人々を『臓器の在庫』とするに至っては、人類を敵に回して憚らない、ひとでなしと断定しても反論はないでしょう。

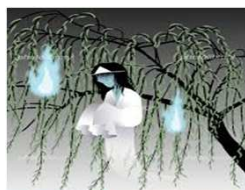
<https://www.youtube.com/watch?v=B0IMb-djHew> 臓器移植 動かぬ証拠



ラオスの火葬場



村はずれの火葬場



ご記憶でしょうか？ 本誌2012年6月号(発刊18号)のTop記事の表題が『死んだら、どうなる。』(限りある、残された時間に／冥途への土産話) **バックナンバーをご希望の方には送信します。** 私の死生観の原点である、私観『死んだらどうなるのか、どこへ行くのか…』について、8年ほど前に語っています。今も同様の観点でいますが、『死に方』には拘りがあって、誰でもが願う様な健康寿命で逝きたいと思っていて、それ故にウェルネスプログラムを継続実践しているわけです。



既誌には竹取物語の話が出てきて、自然死は月からのお迎えが来て、逝くのが自然であるという考えで、人は月満ちて生まれ、引き潮と共に息を引き取るのが自然という月の引力と生命の営み(自然)の絶妙な関係性を保ちながら生きている事を語っています。しかし、社会の変化によって否応なしに不自然な生き方(生活)をし不自然な生き方をしなければ生きにくい世の中にもなっていて、極端な事例(あってはならない、あるまじき事例)を起こす人間と、その犠牲になる人間が上述の事例だと思っています。

現代社会に居住する人の殆どは、多かれ少なかれ不自然な生活を強いられ、不自然人間の一端を担っているとも云えるでしょう。「いやいや、俺は違う！俺は自然児だ！」と云う奴こそが一番の不自然人間だと自白しているようなものです。周りを見渡して見ても、不自然な体つき、顔つき、態度、もの言い、行動の人間を探すのに苦労しないくらい巷にあふれかえています。これらは、時代の変化に伴う社会・環境の産物でもありますから、如何ともし難い、避け難いものでもあります。「省みればかなりな不自然人間になってしまったものだ！」と気が付いたら肩の力を抜いて、自分の不自然な部分(いやな部分=どうしようもない部分)をしっかり再認識しましょう。何十年もかけて造り上げて来た『生活習慣病』のようなものですから、早々簡単に治らないものの、死んだら一挙に解決すると云う恐ろしいものでもあります。せめて生きている間に少しでも治したいというのであれば、大自然のエネルギーの手助けを(天然温泉入浴でのリラクゼーションは、心身のバランス調整に効果的ですからぜひお試しください)求めましょう。



薬草サウナ窯

左図は、荼毘の窯ではありません、天然温泉ならぬ天然ハーブを蒸したサウナ風呂の窯です。チェンマイの郊外メーテンにあるお寺(ワット・トゥングルアン)の一角に設置されていて、開祖の住職が薬草に詳しく、多くの住民の病気が治療にあたっていたとの事で、薬草サウナ施設を造られたとの事です。地産のハーブの香り高い蒸気は、私の気管支にも効果的だったようで、喉すっきり！治っちゃったのかな？と思えるほどでした。(1時間/料金50฿=150円)

誰でもが願わくば、やり残しも心残りもない状態で逝ければ幸せですが、これ又、思うに任せないというのも現実で、多くの人がやり残し、心残りのまま亡くなっているでしょう。

地震と死期は、忘れた頃に突然やって来るものでもあります。それでも、自然死・健康寿命で亡くなれば幸せでしょう。いくら欲をかいても、虚勢を張っても、拝金主義に徹しても、所詮彼岸にまでは持って行けず、歴史に汚名を残すだけのものだと知らない哀れな人間が、荼毘に付される日は、そう遠くなくやって来るでしょう。これ等の犠牲になった人々のご冥福を祈ります。

軸足を 何処に置いて

チェンマイに移住(拠点に移)して、12年になんなんとしています。何とも快適な暮らしをさせてもらっています。経済的(金銭的)に豊かな暮らしではありませんが、身体的、精神的には実に健康的な豊かさを満喫しています。それもそのはず。そういう場所を、現職時代に10年かけて探し回って決めた所ですから当然だともいえます。

実は、前号に記載した中国の温泉地巡りなどで、決定直前まで80~90%中国に拠点を設けるつもりでした。1990年代日本経済は、デフレ(下降)状態に成りつつありながら、政府・日銀は、スタグフレーション(停滞)状態でデフレではない。金融政策によって景気は回復できると財務省の指揮の下、ひたすら緊縮政策に没頭して来た(未だに継続している)結果、完璧にデフレ経済に陥ってしまった。私を含め多くの国民は、米国やディープステートの思惑によって財務省が操られている事は、今でこそ知られてはいても如何様にも対処できない。なぜ対処できないかと云えば、米国やディープステートの思惑に反する緊縮政策をやめ、大型財政出動によって景気回復策に切り替える大英断は、首相にしかできないからだ。やるか? やらないか!

大・中小企業の経営者が、中国に海外流出した根本原因は、単に人件費が安いからという理由だけではない。低迷迷走する日本政府の経済政策の犠牲者になるよりも、経済発展している国に拠点を移して、その勢いに乗りたいたいと思うのは人情でもある。



チェンマイセラドン焼-1



チェンマイセラドン焼-2

私の思惑は、日本の少子高齢化以上の、高度少子高齢化社会に、長年一人っ子政策をやっていた中国が成るだろう事が見えていたから、『くつろぎのいおり』の需要は、日本の比ではないと思っていて、その拠点としての場所探しでもあった。しかし、探索する道すがらに出会い紹介された現地の実業家、中国公安、共産党幹部と称する人達の慇懃無礼さと横柄さから直感的に危険な匂いを感じ取って、費やした費用を反故にしてでも、拠点たり得ないと判断し、中国は『くつろぎのいおり』を造っても、安心・安全に過ごせる場所ではない事を実査し、白紙に戻した。あの時の直感が、今まさに起こっている人権問題の実態ですから、背筋の寒さを覚えます。

<https://www.youtube.com/watch?v=5YTPz3jyBmU> 国民の資産を奪り取る中共

投資した資金も無駄になり、私有財産までも没収され、逆らえば身柄を拘束され、言論を封殺され、覚えたくもない中国語を強要され、共産党の監視下に置かれては、『くつろぎのいおり』処か、生きた心地すらなかったでしょう。私は、現場・実査・体験・体感主義で、興味・関心を持ったものは、何でもやってみよう、行ってみよう、見てみようという考えと行動が、結果的に自助につながった例かも知れません。(直近の米中関係の動画をご覧ください)

<https://www.youtube.com/watch?v=MLNift8nzc0> 習近平選取肢が無くなった

そんな訳で、タイ国(チェンマイ)か、中国(の何処)かの選択は、原点のチェンマイに戻りました。今から12年以前の話ですから、その時点では現在の中国情勢など、努々想像だに出来ませんが、直感が働いて幸運でした。頭と性格の悪さでは定評のある習氏は、毛沢東を超えた主席を目指し、党内で核心であることを明文化したとの報道がされましたが、本心から核心様を崇拜する党員は極一部のようです。どこまで行っても、何と名乗ろうとも張り子のプーさんは、汚名以外歴史に残りそうにもありません。同類の政治家が日本にも多数いますが、一番の問題は、それらを当選させている頭と性格の悪い有権者が日本を貶めていると云う事です。

実害がなければ幸いです。時流に乗った気になって、体制側又は反体制側のポピュリズムに乗って支持した途端に裏切られるのが世の常です。中共の政策を手玉に取って荒稼ぎし、限界を見極めた途端に大逃げを打った頭の良い男が中共から追われているようです。

<https://www.youtube.com/watch?v=dOBccJRQlRA> 李嘉誠氏が逃げ切り

<https://www.youtube.com/watch?v=Y5kIZ7OVok4> 対中政策にEU特別首脳会議開催



チェンマイセラドン焼-3

私の考える共助の根本は、何度も記述して来た『かけがえのない人、それはあなた』であって、この事が理解される人と共に助け合い、共存し、共栄して行きたいと云う事に尽きます。

先ずは、自分自身が両親をはじめ、祖父母・祖々父母...先祖代々・自分を取り巻く周りの人々の期待と寵愛を一身に受け(時に期待に反し、裏切りながら)生きて来て、困ったり、苦しんだり、悩んでいた時に数えきれないくらい助けてもらった恩を忘れてはいけないう事でもあります。故人の霊・魂までもが助力し、叶わぬ願いを果たしてくれたこともあるでしょう。

日本の存続と戦後の繁栄を願いつつ、虐げられた東亜の民族解放のために戦地に赴き、戦わずして傷病に倒れ、草生す屍となられた英霊こそ、共助の最たる証でもあります。

10月17日から1泊2日で、メーホンソン県のクンユアムに慰霊に行つて来ようと思っています。

特に、何(イベントなど)がある訳でもありませんが、この時期は野焼きをやっていませんから、

快適なドライブコンディション(片道6時間の山中ドライブ)だと思います。勿論、道すがらにある天然温泉は見逃しません。公助で為すべきことは山積しているでしょうから、新政権が何から手を付けていくのかを注視し続けましょう。先日の学術会議推薦者の6名の任命拒否は、快挙だった。前例の踏襲は是としないという事例で、前政権を引き継いでも、悪しき前例と判断すれば踏襲しないし、撤回するかも知れません。どう改革になるかのキーワードは、首相の所信表明にあった『国民のために働く内閣』ですから、『国民のため』こそが公助の大前提だと云う事です。



チェンマイセラドン焼-3